

第 25 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会
第 3 回会議録（概要版）

開催日時：2021 年 2 月 1 日（月） 10:00～12:00

場所：ビデオ会議

参加者：小松、多久和、西村、浅野、井上、太田、片田、萱間、神原、坂下、新福（記録）、田高、菱沼、南、森山、山本、吉沢、綿貫

欠席：真田、寶金、三重野

（敬称略）

資料

0. 第 25 期看護学分科会 第 3 回会議次第

0-1. グループの割り振り

1. 2 度の非常事態宣言下を経験してきた神戸市看護大学の事例（南委員）
2. COVID-19 感染蔓延下における看護大学の「地域ケア」活動事例ー 石川県立看護大学の取り組みの紹介ー（多久和委員）
3. 看護学分科会で検討したいこと（萱間委員）
4. 日本学術会議 第 25 期看護学分科会 第 3 回会議に向けた作業課題（浅野委員）
5. 看護分科会の方向性（案）（森山委員）
6. 看護学における実践開発イノベーション（真田委員）

参考資料：各委員からの事例

【議題】

（1）看護学分科会の活動について

小松委員長より、前回全員出席の中で挙がった話題から、2つのテーマに集約した。本日は話題提供をいただきながら、論点を整理していきたいと説明された。

① 看護学教育と COVID-19 について

南委員より、資料 1 を用いて大学全体がどのように教育研究と地域連携を行ってきたかについて説明された。

多久和委員より、石川県立看護大学の取り組み事例が紹介された。

南委員との共通点として、

- ・発信することに力を入れていた。

・看護師免許を持つ教員や院生がクラスターに出向いて看護師として支援を行っていることが挙げられた。

西村委員より、地域連携としては、中央政府と都道府県、市町村との連携という議論があり、東京都では東京都、及び区との調整が行われたことが説明された。看護学としては、既存の枠組みに捉われず、これを柔軟に超えてアイデアも出し、市民の視点を持って地元創成看護を作っていくことが大事だと述べた。

意見交換として、協定やインフォーマル、フォーマルにつながっていく方法について共有があり、日常から顔の見える関係性の構築が重要であることが述べられた。

小松委員長より、学術会議、看護学分科会としてどうしていくかを話し合いたい。社会のニーズに対応する看護学の発展、政策的な部分を含めて看護系大学のあり方もより発展しなければならない。地元創成看護学を看護の中に生んでいく、学問として災害看護を生んだ時と同じような動きを学術会議として発信し、各大学がカリキュラムに含めていく、教育のあり方から変えていく。どこと連携しながら発展、発信していくのかを慎重に考えていかねばならないことが伝えられた。

協議会、看護協会、行政との連携について、また教育との関連について議論が交わされた。連携する際の教員の保障や行政手続きの複雑さについても述べられた。

② 看護学分野の技術・システムの発展について

萱間委員より、ストレス要因とストレス反応への配慮のガイドライン、Psychological First Aid (PFA)の電話相談やリモートへの活用、コロナ禍の自殺の増加について、いきなり病氣モデルではなく、人と人の中での関係性の中で、あなたと部下のエピソード、関わりのポイント、自分のセルフケアという関係性によって整理をした。加えて電話相談、メール相談をやっていることが紹介された。

浅野委員より、小児・家族分野での影響について、ボランティアや面会の制限という療養環境という点で大きな影響があったこと、きょうだい会や学習支援も、病院内はネットワーク環境が悪くて限界があったことが紹介され、今後の工学系との連携、ロボットの療養環境や学習支援での発展が期待されている。

森山委員より、大学発ベンチャーでのテクノロジーを活用した地域サービスの事例が紹介された。看護学におけるイノベーションとして、ケアテクノロジーをどのように開発していくか、実装科学研究の役割と倫理的課題を同時に行っていくべきではないかと提案された。小松委員長より、真田委員の話題提供として、AIを用いたスマートナーシング、コミュニケーションロボットやICTとAIを用いた遠隔看護が進んでいるという実態が紹介された。

意見交換として、開発されたサービスを社会的な仕組みに取り込むことの重要性、コロナ禍における看護師へのメンタルサポートが議論され、理論的な整理と方略的な新しいあり方（倫理を含める）という整理をし、勉強会をしながら進めていくという方向性が示された。他にもグローバルな事例との共有点、地元創成看護と地域連携、イノベーションとの関連、データサイエンスの看護学分野での発展、日本学術会議として国民に還元できるという視点で考える必要性などが語られた。

小松委員より、今後の2グループに分かれて取り組むことが提案され、グループの割り振り案（資料0-1）が表示された。

（2） 少子高齢化におけるケアサイエンス分科会との連携について

時間が不足したため、メール審議となった。

（3） その他

特になし。

以上